



Shikoku
Cancer Center News
No.51

四国がんセンター ニュース



日本医療機能評価機構
認定番号JC1324号

2015
4
APRIL

基本理念 患者の立場にたち人格を尊重し、科学と信頼に基づいた最良のがん医療を提供します。



(岩淵山のアケボノツツジ 西条市 撮影:俊野 健治)

愛ディア募集

昨年のノーベル物理学賞にわが国の3人の方々が輝きました。そのうちの一人は愛媛県出身の中村修二先生で、これで愛媛県からは2人目のノーベル賞受賞者を輩出したことになり、私までが胸を張って過ごしたくなるような気がします。ノーベル賞受賞のきっかけとなった天野浩教授の青色発光ダイオードの開発につながる研究エピソードにも興味深いものがあります。それは発光チップのもとになる結晶を作成する際に、機械の故障で失敗と思われた経験にも注意を向けることで偶然的にも高純度の結晶作成につながったというエピソードです。この話は抗生物質で有名なペニシリンの発見にも似ているように思います。そのように考えると、私達の失敗からノーベル賞につながる発見がある??? とは言いませんが、日常の仕事でも注意して観察することで、意外な発見があるかも知れません。当たり前と思っていることの中に大切な事実が隠されていたエピソードとして、胃がんにおけるヘリコバクター・ピロリ菌があります。日本人の罹患するがんでも最も多い胃がんの原因がピロリ菌と密接な関係があることを突き止めたのは、皮肉なことにオーストラリア人であるMarshall先生とWarren先生で、彼らはピロリ菌と胃潰瘍・胃がん

の研究で2005年にノーベル医学賞を受賞しています。胃がんの手術も多い我が国で、胃の手術標本に細菌がいることは以前から指摘されていましたが、潰瘍や発がんとの関係があるとはほとんど考えなかったようです。この菌の研究でピロリ菌の生体検査や治療法も開発され、胃十二指腸潰瘍や胃がんの罹患率の低下に貢献しています。(もう少し正確に言えば、胃がんの発生にはピロリ菌だけでなく塩分の多い食生活も関係があるようです。)

では日常どのようなことに気を付ければ新しい発見につながるのでしょうか?そこが問題で、私のような外科医にとって、日常患者さんを診ているようでも病気のことと創部に関連したことにしか目を向けていないことがよくあります。昔恩師に『お前たちは病気を見るだけで患者さんをあまり診ていない』といわれた言葉を思い出します。患者さんの症状、表面上(画像)の病状の対応にばかり気を取られてはダメで、患者さん自身のことや家族の方々への医療者としての配慮することにも目を向けるように、という事だったのでないかと今頃になって反芻する今日この頃です。この言葉は、高血圧症や糖尿病あるいは慢性閉塞性肺疾患といった生活習慣病を治療する医師に

向けた言葉と以前は思っていました。そうとは限りません。患者さんは入院でも外来診療時も、私たち医療者に目的とする疾患の治療を期待するとともに、療養上あるいは健康上のアドバイスを求めているのではないのでしょうか?しかしながらそれぞれ専門性を持って役割分担化された診療のシステムの中で、一担当医ではうまく患者さんのニーズに答えきれない状況もあるのが現実です。でも当院では、患者家族支援事業としてがん患者サロン、がん患者さんの就労支援やチャイルド・ケア・プロジェクトなどの様々なプログラムがあり、病院全体でがん患者さんと御家族を支援したり悩みや問題点を共有する体制が整いつつあります。この体制をさらに発展充実させ、がんが見つかったからの治療やケアだけでなく、今後はがんの検診啓発や、がん予防といった方面でも様々な情報発信をしてゆく必要があるのではないかと考えています。そのためにもみんなで意見やアイ(愛)ディアを出し合ってより良いものにして行きたいものです。



(統括診療部長 山下 素弘)

四国がんセンターの理念

患者の立場にたち人格を尊重し、科学と信頼に基づいた最良のがん医療を提供します。

■基本方針

- ①患者の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
- ②がん基幹医療施設として全国及び地域の医療施設と連携した最新の医療を実施します。
- ③がん克服に向けた予防・診断・治療の研究を推進します。
- ④最新のがん医療の普及を目指した教育・研修を実践します。
- ⑤がんに関する医療情報の収集と国内外への発信に努めます。
- ⑥健全な病院運営、継続的な意識改革により患者の視点にたったサービスに努めます。

看護部の理念

私たちは専門職としての誇りと責任をもち、がんと共に生きる人を支える最良のがん看護を提供します。

■基本方針

- ①患者のQOL向上をめざした看護を実践します。
- ②がん看護の専門家として、チーム医療に参画します。
- ③がんとともに生きる人をサポートするシステムをつくりまします。
- ④専門職として研鑽を重ね、がん看護の指導的役割を担います。
- ⑤患者サービスの向上に向け病院運営に参画します。

患者の権利とお願い

■患者の権利

①良質かつ適切な医療を受ける権利

個人の人格が尊重され、科学と信頼に基づいた診療を受けることができます。

②「説明と納得」のもとに医療を選択する権利

病状や治療法に関する情報の提供と納得いく説明を受け、検査・治療法について自ら選択あるいは拒否することができます。

③自己の診療記録に関する情報開示を求める権利

自己の診療記録の情報開示を求めることができます。

④個人情報保護される権利

診療上得られた患者及び家族の個人情報は、法律上あるいは治療上の正当な事由のある場合を除き厳正に保護されます。

⑤セカンドオピニオン制度を利用する権利

主治医より受けた診断、治療方法について他の医療機関の専門家に意見を求めることができます。

■お願い

- ①自己の病状や健康に関する正確な情報を医療従事者にお伝えください。
- ②よりよい療養環境を維持するために病院の規則ならびに医療従事者からの指示をお守りください。厳守されない場合には診療や療養を継続することができなくなることがあります。
- ③患者さんの間でも、お互いの立場やプライバシーを尊重してください。
- ④あらゆる危険を回避するために事故防止にご協力ください。
- ⑤がん医療の発展のために当院での臨床研究・教育・研修にご協力ください。
- ⑥当院は独立採算制をとっています。病院の運営維持のために診療費は確実にお支払いください。

CLINICAL PATH

REPORT

平成27年 公開パス大会

最適なパスの形を目指して

平成27年1月17日、四国がんセンターにて「最適なパスの形を目指して」をテーマに公開パス大会が開催されました。

クリニカルパスとは、診療の過程と目標を形にしたものであり、例えば、患者さん用では「治療の経過に沿った日めくりのパンフレット」も含まれます。四国がんセンターでは、パスの活用以前より積極的に取り組んでおり、現在では四国がんセンター入院中の患者さんの半数以上に利用されていて、診療の標準化、効率化などに役立っています。今回の大会では、理想のパスを目指した活発な討論が行われました。

参加者は100名を超え、公開パス大会と名前の通り、愛媛県下はもちろん、遠くは沖縄を含む全国の病院から参加や発表があり、関心の高さがうかがわれました。また、四国がんセンター在職時にはパス活動の牽引役であった名古屋大学の舩田千秋先生による「電子カルテにおけるクリニカルパスとセットオーダーの良い点悪い点」と題した教育講演は、最新の話題が非常にわかりやすかったと好評でした。講演に引き続き行われたシンポジウムでもパスの利点に関するさまざまな意見が飛び交い、非常に活発な議論が行われました。さらには、大会の新たな試みとして、委員会活動の啓発を目的に、四国がんセンタークリニカルパス推進委員会の院内パス改善への取り組みを紹介するなど、非常に盛りだくさんの内容となりました。

今回の大会でのトピックスの一つは、看護師が主体で運用する看護ケアパスが四国がんセンターで始動し始めたことです。今後、各部門に広がり、チーム医療の更なる質の向上が望めると期待されています。もう一つは、パスの施設間での共同開発の話題です。四国がんセンターで使用している電子パスを、松山市民病院の電子カルテシステムに導入することに成功した発表でした。これは日本初の成果であり、パス領域における新たな展開の第一歩であると感じました。

紙のカルテから電子カルテの時代に変わりました。パスについても、ニーズに合ったより良いものに改善してゆく必要があります。患者さんにとっても医療者にとっても理想となるパスを目指してゆく意味で非常に有意義な大会でした。



(クリニカルパス推進委員会副委員長 羽藤 慎二)



がん治療 最前線

整形外科・リハビリテーション科

最近、がん治療においては、生存の延長だけでなく、できるだけQOLを保ち、よりよい生活を送ることが重要視されています。

がんの進行や治療に伴い、がん患者のActivities of daily living (ADL 日常生活動作)やQuality of life (QOL 生活の質)は低下することが少なくありません。進行がんでは、ADL・QOLを維持するのは困難で、早期がんも、治療に伴う機能障害が長期間続くことがあります。この問題に対処するため、多くの病院でがんのリハビリテーションが行われるようになりました。

当院では、平成23年4月にリハビリテーション科が設立され、理学療法士(PT)4名(平成27年4月～ 5名)、作業療法士(OT)1名、言語療法士(ST)1名によりがんのリハビリが行われています。基本的には入院中の方を対象にしており、患者さんの体調に応じてベットサイドやリハビリ室での訓練を行っています。現在、乳がんや肺がんの周術期リハ、

化学療法後の廃用症候群、骨転移に伴う障害に対するリハビリなどを行っています。がんによりADLが低下した患者さんは多いですが、離床をすすめることで肺炎や体力低下などの廃用症候群が予防されます。また、社会復帰を希望されている方もおられ、患者さんのニーズに合わせたリハビリを行うよう努めています。

がん治療には多職種が連携し、チーム医療を行う体制を確立することが重要です。がん患者さんのADL・QOLを向上させるためには、多くの職種が携わる必要があります。当院では、一部のがんでは、療法師が主治医や看護師と協力し、カンファレンス等を通じてお互いの意思疎通を図る取り組みを行っています。

がんのリハビリは多くの病院で行われるようになりましたが、がん患者のADLやQOLを改善する取り組みは、まだ十分とはいえません。また、エビデンスに基づいたリハビリの方法もあまり解明されていません。今後は、有効なリハビリの方針が確立されれば、がん患者さんのADL・QOLのさらなる改善が期待できると考えられます。

また、平成27年4月より、理学療法士が、1名増えたことで、さらにより多くの患者さんのご要望に柔軟に対応できるようにしていきたいです。

(リハビリテーション科医師 中田 英二)



がんセンターだより

愛媛県がん診療連携拠点病院相互訪問調査



愛媛県のがん診療の86%はがん診療連携拠点病院(以下拠点病院)が関わり(全国地域がん登録2012年報告による)、がん診療における拠点病院の重要性が増して

います。しかし、がんの診療体制は未だ患者やその家族の視点に立った医療体制の質的な整備が依然として不足しており、拠点病院が十分機能していないとの指摘があります。平成26年の新たな拠点病院指定の指針では「PDCA(注1)体制の構築」が求められました。それを受けて愛媛県では拠点病院(四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、愛媛県立中央病院、松山赤十字病院、済生会今治病院、住友別子病院、市立宇和島病院)の相互訪問を実施しました(平成26年11月から27年2月)。今回はその報告です。

■方法:県拠点の四国がんセンターともう1つの拠点病院の幹部職員(院長・看護部長・事務部長等)が組となって調査対象となる拠点病院を訪問しました。訪問先の拠点病院の幹部職員が同席する中、現場の担当者からがん診療の状況について説明を受けました(写真)。がんの標準治療計画表(クリティカルパス)の整備・適応状況、抗がん剤投与規定(レジメン)の運用状況、緩和ケアチーム活動、がんセンターボード(多職種合同症例検討会)等の現状について説明を受け、会議録・参加者名簿・カルテ記録・診療報酬算定、緩和ケアマニュアル、緩和ケアスクリーニング票、相談支援記録等を確認しまし

た。続いてがん相談支援センター、外来化学療法室、がん登録室の現場を見学しました。最後に各病院がそれぞれ工夫しているPDCA活動について紹介を受け、拠点病院としての活動について意見を交換しました。

■結果:設備・人人体制の面では差がみられるものの、抗がん剤治療・放射線治療、手術治療の体制が整備され、エビデンスに基づいた標準治療(ベストプラクティス)がすべての拠点病院で実践されていることが確認できました。緩和ケアチーム活動・がん相談支援においては、看護師・ソーシャルワーカーを中心とした精力的な取り組みがそれぞれに工夫されていました。しかし麻薬処方体制や緩和ケアチーム対応数には拠点病院間に差が認められ、患者さんに必要な支援が行き届いていない可能性があるという指摘がありました。がん登録はすべての拠点病院で専従の診療情報管理士が複数人配置され体制が充実していました。病院のPDCA活動では、各病院で様々な質改善活動が行われていました。総じて愛媛県では拠点病院のがん診療がうまく機能していることが確認できました。訪問した施設もされた施設もそれぞれ自院の改善すべき点・伸ばすべき点を改めて認識するよい機会になりました。

今回の調査結果はがん診療連携協議会で共有・還元していく予定です。県拠点である四国がんセンターとしては愛媛県のがん診療体制を心強く思うとともに、拠点病院間の連携を進め、がん診療の向上に一層貢献していきたいです。

注1)PDCAはPlan Do Check Actのサイクルをいい、業務の質改善の方法論。

(副院長 谷水 正人)



臨床工学技士

皆さんは「臨床工学技士」と聞いて、病院でこういった仕事をする職種なのかと思われるのではないのでしょうか。臨床工学技士とは「医師の指示のもと、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者」と法で定められている国家資格です。生命維持管理装置とは、「人の呼吸、循環または代謝の機能の一部を代替し、又は補助することが目的とされる装置」と定義されており、人工呼吸器や透析装置等がそれに該当します。すなわち患者さんの診断・治療に関わる様々な医療機器の専門家として、当院では私を含め現在2名体制で勤務しています。

当院における臨床工学技士の業務は多岐に渡り、患者さんに身近な輸液ポンプ等の医療機器の保守点検・整備や、手術室で使用する機器点検・操作、人工呼吸器や透析装置の操作、腹水濃縮、内視鏡治療の介助、末梢血幹細胞採取時

の機器操作…等々、様々な部署で多くの診療科の診断・治療に携わります。最近では手術支援ロボットの導入に伴い「ダ・ヴィンチ手術」にも介入し始めるなど、業務は日々広がりを見せています。

近年、医療はより高度化し、それを支える医療機器も多種多様に発展しています。臨床工学技士はそのような様々な医療機器を介し、患者さんへの安心安全な医療提供に対し、チーム医療の一員として貢献しています。医療的な知識・技術に加え、工学的なアプローチで今後益々発展していく医療機器に向き合い、最良のがん医療提供の一助となれるよう日々努力しています。



(臨床工学技士 清水 俊行)

愛



される食事づくりを。

「食事提供時には名前を確認します!!」

栄養管理室では医師の指示のもと、食事を間違えることなく提供し、おいしく食べていただくことを心がけています。

しかし、過去には名前確認が不十分だったため、誤った食事提供が行われたこともありました。そこで昨年、他

部署と連携を図り食事の提供方法を変更しました。これまでは、患者さんに名前を呼びかけて食事提供をしていましたが、現在は患者さんに名前を名乗っていただき、食札の名前と確認し提供しています。

入院の際には毎食ごとに名前を確認させていただきますが、ご協力よろしくお願いいたします。これからも、安心・安全な食事提供に努めてまいります。



(栄養管理室 栄養士 松本 梨早)



治験 CHIKEN CORNER

ちけん

「当院では治験を実施しています」

●現在募集中の治験等情報

右記の件数は企業治験、医師主導治験、製造販売後臨床試験の「現在募集中の治験等情報」です。

(平成27年3月1日現在)

- 乳がん……………7件
- 卵巣がん……………1件
- 子宮体がん……………1件
- 子宮頸がん……………2件
- 前立腺がん……………2件
- 膀胱がん……………2件
- 大腸がん……………1件
- 胃がん……………7件
- 肝細胞がん……………1件
- 血液がん……………1件
- 肺がん……………11件
- 膀胱がん……………1件
- 頭頸部がん
(口腔粘膜炎)……………1件
- その他
(複数科で実施の治験)……………2件

こちらは、治験・臨床試験管理室です。このコーナーでは、ただ今、募集中の治験等の情報を提供しています。なお、過去に紹介した治験等に関する質問と回答内容は、ホームページの当室コーナー(アドレスを参照)に掲載しています。

(治験主任 峯本 譲)

ホームページアドレス

<http://www.shikoku-cc.go.jp/chiken/index.html>



お世話になって医ます

乳腺クリニック・道後 浦岡胃腸クリニック

四国がんセンターは、初診患者さん全てが地域の医療施設からのご紹介です。ここでは、かかりつけ医の皆さまからうかがった、様々なご意見をご紹介します。

乳腺クリニック・道後



乳腺クリニック・道後を訪問してきました。

乳腺クリニック・道後さんは松山市の中心勝山町に一昨年愛媛県で初めての乳腺疾患専門クリニックとして開院されました。院長の井上博道先生は以前松山赤十字病院の乳腺外科部長として勤務されており、乳腺外科一筋の医師人生を送ってこられた方です。当然以前勤務されていた松山赤十字病院とは連携をされていますが、当院との結び付きも強く、多くの乳がん患者さんをご紹介いただいています。

院長の井上博道先生は以前松山赤十字病院の乳腺外科部長として勤務されており、乳腺外科一筋の医師人生を送ってこられた方です。当然以前勤務されていた松山赤十字病院とは連携をされていますが、当院との結び付きも強く、多くの乳がん患者さんをご紹介いただいています。

当院と乳腺クリニック・道後とが密接に連携させていただくことによって、松山市街地にお住まいの患者さん方のご負担が軽くなります。

当院は松山市街地から遠く、松山市街地にお住まいで車を運転されない方や、ご高齢の患者さんの通院が困難とよく言われます。そのような患者さんには、自転車や市街電車などで通院できる乳腺クリニック・道後さんに術後の経過観察やホルモン剤の処方をお願いさせていただくことができます。お住まいが市街地の中でなくても、松山市街地に職場がある当

院通院中の患者さんの中には、受診の日に半日仕事を休んでおられる方もいらっしゃると思います。そのような方で乳腺クリニック・道後さんであれば、1時間程職場を離れることで通院を済ませられるという方には是非申し出ていただきたいと思っています。



乳腺クリニック・道後 井上 博道 院長(左)
がん診断・治療開発部長 大住 省三(右)

(がん診断・治療開発部長 大住 省三)

乳腺クリニック・道後

- 住 所: 〒790-0878 愛媛県松山市勝山町2-9-10
- 電 話: 089-913-7007
- 診療科目: 乳腺外科
- 休 診 日: 日曜・祝祭日



	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	—	—
9:00~14:00	—	—	—	—	—	○	—
14:30~18:30	○	○	—	○	○	—	—

浦岡胃腸クリニック



松山市石手にある浦岡胃腸クリニックを訪問して、院長の浦岡正義先生にインタビューをしてきました。浦岡院長先生は愛媛大学医学部で学位を取得された後、松山赤十字病院、松山市民病院で消化器内科の内視鏡医として研鑽を積まれました。そして内視鏡医として更なる高みを志し、昭和63年に現在のクリニックを開業されました。当時としては珍しい胃腸専門クリニックでしたが、現在では県内屈指の内視鏡検査数を誇るクリニックです。

クリニックの特徴を教えてください。

1日に多いときで胃カメラ約40名と大腸カメラ約20名をしています。大腸カメラは冬に受けると検査の準備が寒くてつらいことが多いので、大腸カメラ専用の個室がありま



大腸カメラ専用の個室

す。部屋とトイレには暖房がついており、冬でも暖かくて恥ずかしい思いをせずに準備をすることができます。検査を終えた後はゆっくりと過ごしてもらえるように静かでゆったりした応接室があり、雑誌などを読みながら過ごすことができます。

四国がんセンターに連携で希望することはありますか？

患者さんががんと診断されたら、できるだけ早く四国がんセンターでの受診が出来るようにして欲しいです。患者さんはがんと診断されてとても不安ですから、一日でも早くみてもらいたいですよね。

趣味や好きなスポーツはありますか？

30年ほど趣味でテニスを続けています。今も1週間に2回ほどレッスンを受けて、気のあった仲間たちとテニスをしてリフレッシュしています。

お忙しい中インタビューに応じただいた院長先生は、優しく微笑みながら、静かな語り口で、分かりやすく説明してくれる「信頼できる先生」という印象でした。四国がんセンターは、紹介患者さんを一日も早く診察できるように地域連携の努力を更に続けてまいります。



浦岡胃腸クリニック 浦岡 正義 院長(左)
手術室医長 野崎 功雄(右)

(手術室医長 野崎 功雄)

浦岡胃腸クリニック

- 住 所: 〒790-0852 愛媛県松山市石手4丁目3の10
- 電 話: 089-932-1133
- 診療科目: 内科/消化器科
- 休 診 日: 日曜・祝祭日



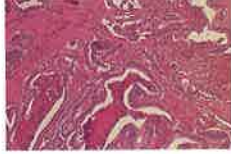
	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:30	○	○	○	—	○	—	—
8:30~13:00	—	—	—	○	—	○	—
16:00~18:00	○	○	○	—	○	—	—



がん診療を支える病理診断

身体から取り出された臓器や細胞の形態変化を肉眼や顕微鏡で観察して行う診断を病理診断、それを担当する医師を病理医と言います。がんの組織は正常から逸脱した組織です。その特性は組織構築や細胞像に現れます。それを直接調べることはがん診療において

●病理診断とは



臓器を切って、選んだ部分をパラフィン(蠟)に埋め、薄く切って、H&E染色(赤と紫に染める)を行います。それを顕微鏡で観察し、診断します。(病理科医長 寺本 典弘)

もっとも信頼度の高い検査法です。

病理診断機能は医療に欠かせないものですが、がん診療においては特に重要です。問題になっている病変が何であるかの診断の確定、治療前の方針の決定、術中の切除断端の判定、手術標本での予後の予測、再発の検査や、タンパクや遺伝子の発現などを用いた治療効果予測などがん診療の要所々々に我々が関与しています。

当院では3人の病理専門医と7人の細胞診スクリーナーを含む9人の検査技師が病理診断を行うために働いています。直接患者さんの前に出ることあまりありませんが、四国がんセンターを我々が支えています。

「患者の言い分、 医者への言い分」Fu...



元気なの?それとも無謀!?

それはいきすぎでしょう!

もう25年以上前になりますか、当時80才代のおばあちゃんの乳がんの手術をしました。がんが大きかったこともあり、また、当時は胸の筋肉を残すことはまだ一般的ではなく、乳房とその奥にある筋肉を切り取る手術をしました。手術のあとは、皮膚が胸壁によくくっつくように、にじみ出たリンパ液を体外へ出すドレンという細い管を入れ、手術した側の腕は、数日間は安静しておくのが一般的です。ところがそのおばあちゃん、翌日の回診時にたまたま廊下で出会ったのですが、なんと、腕をぐるぐると廻しているのです(>_<)。それも半端な廻し方でなくやけくそな感じで廻しているのです。「〇×さん!そんなに動かしたら皮がつかんよ!」「そがいにゆうても、手が動かんようになったらいかんけん、動かしようたんよ」「動かすときになったら、こちらからゆうけん、それまで待つて!」ひやひやしなながら経過をみていましたが、世の常で、このような患者さんはたいてい順調に経過するものです。おばあちゃんも例外ではありませんでした。

これ、袋の口があいとるよ!

このおばあちゃん、ご主人と若い頃に死別し、子どもさんもなかったのですが、無類の子どもも好きで、外来では子どもたちを見つけてはよく遊んでいる姿を見かけたものです。(当時は小児科もあったのですよ)もっとも、子どもが喜んでいたらどうかは…(^_^;) ある日の外来で、「先生、これ、おいしいけん食べてみてや!」「ありがと!」おばあちゃんの地元の駄菓子のようなものでした。でもよく見ると、ふうが切っただけです。「おばあちゃん、これ口があいとるよ!」このおばあちゃん、国鉄(今のJRです)に乗って通院していた

のですが、車の中でくずる子どもがいたそうです。「きしなの車の中でな、女の子が泣いとったけんちょっとわけてあげたんよ。泣き止んで良かったわい」やさしいおばあちゃんですよ、それを聞いて納得。残りでも私にあげたかったんだね。だんだん。

それは無茶でしょう!

おばあちゃんだけではありません。元気な、「私たちの立場から言えば」無茶な患者さんに時に会います。東京のあるがんセンターでの出来事です。アメリカのある大企業の会長さんが、胃を全部切り取る手術を受けたときの事です。術後の経過も良く、多忙な方で、手術から1週間目に退院されたそうですが、お祝いにと大好きなステーキを食べたんだそうです。もちろん医師にだまってこっそりと。全部食べたかどうかは定かではありませんが、このエピソードを聞いた「心豊かな?」医師たちは、おこるどころか、「なあんだ、大丈夫なんだ…」それまでは、胃を全部切り取ったあとは、1週間目に水分からはじめ、2日ごとに、流動食、3分粥、5分粥…とあがっていくのが常道でした。

当がんセンターにも強者がいました。この方も胃がんで手術をしました。胃は少し残ってはいたのですが、3日目に、大好きだったのでしょね、ラーメンを1人前食べたのです。さすがに苦しかったようですし、その後熱も出て、自分の無茶ぶりを反省したようですが、私たち医者はやはり、「なあんだ、大丈夫なんだ…」それからです、胃がんで手術後の食事アップの速度が速まったのは(*^_^*)

医学は、時に患者さんの無茶ぶりから進歩する

今でさえ当たり前になったクリニカルパス—そう、治療の説明や経過を書いたあれです。これは、実は何度も改定されているのです。もちろん、いろいろな臨床試験をもとに積み重ねてきた科学的な証拠をもとに変わっていくのが一般的ですが、時に、このような患者さんの行動がもとになっていることもあるのです。つまり、彼らが、私たちの目から鱗を落としてくれることもあるのですね。でも、本心はと言えば、「無茶」はしないほうがいいなあ…

(院長 栗田 啓)

ハイ!一句 がんセンター 俳句ポスト



特選 定命あらば強く生きたや草青む

(71歳 女性)
「定命(じょうみょう)は、仏語で寿命のことだそう。定められた寿命があるならば強く生きたい、春の草が青むように力強く。心からの叫びそして願いのこもった句にくっと来ました。作者は定命(さだめ)と読ませたいのかも、とも思いました。

入選 柿の実の熟れるがごとし我が身かな

(67歳 男性)
我が身を柿の実に見立てました。熟してゆく実、そして我が身もまた。壮絶な思いです。

入選 こはるびのいよのほそみちつまとゆく

(79歳 男性)
すべてひらがなで書かれているところがこの句の世界に似合っています。優しさと愛情を感じます。

入選 入院やまきし大根気にかかる

(59歳 男性)
大根蒔くは、秋の季語。大根を蒔いた後に入院が決まり、その後しばらく入院生活が続いているのでしょうか。きちんと農業を営まれてきた方の実感の一句。

入選 今朝もまた窓辺に鳩の見舞い受け

(77歳 男性)
毎朝窓辺に来る鳩、いつしか見舞いのように思え、和みの時間に。幸せを運んで来てくれますように。

入選 里祭やまひ忘れて獅子の舞

(72歳 男性)
特別な里祭・そして獅子の舞に、病のことを一時忘れられる。作者自身が舞っている場合と観ている場合と、両方のパターンが考えられますね。「ま」の韻の踏み方も心地よい。

入選 梅開花聞きてオペ室近くなり

(72歳 女性)
梅の咲く頃に手術予定であったのでしょうか。開花の便りと同時に手術がよいよ近づいて。手術と言わず「オペ室」と場所で詠んだ客観性に一票。

選者:三瀬あき(100年俳句計画いつき組)



皆さんの「一句」募集中!!

患者さんのご要望で生まれた四国がんセンターの俳句ポスト、「ハイ!一句ポスト」。大変ご好評をいただいております。設置場所は、各階エレベーター前、図書コーナー、総合案内、支援センター「向日葵」で、作品は随時募集中です。選句は、毎月当コーナーに掲載させていただきます。患者さん、ご家族、面会の方、職員、どなたでも気軽にご投稿ください。皆さんの「自慢の一句」「楽しい一句」をお待ちしております。



お知らせ

いつも四国がんセンターニュースをご愛読頂きありがとうございます。ニュースの定期発送をご希望の方は、広報活動委員までご連絡ください。

■ご連絡方法…●電話:089-999-1111(代表) ●FAX:089-999-1100

なお、既に定期発送させて頂いている方で、発送が必要でない場合はご一報頂きますようお願い申し上げます。

ご意見箱設置

当院では、中央待合ホールや各病棟にご意見箱を設置しております。皆さんからいただいた当院への貴重なご意見、ご感想は職員一同、真摯に受け止め、患者さんの立場に立った、よりよい療養生活、療養環境に貢献できますよう改善に努めて参りたいと考えております。今後とも当院に対するご意見等がございましたらご遠慮なくお寄せください。(氏名・病棟名は無記名でも結構です。)

皆さんからのご意見、ご感想に対する回答は、2階患者さん用エレベーター横の掲示板に掲示させていただきます。



ご意見、ご感想等ありましたら、広報活動委員までお寄せください。

■広報活動委員…谷水 正人(委員長)・山本 美二・石井 浩・山下 素弘・井尻 昭・伊藤 真之・玉井 健一・田本 真理子・森本 武光・高市 瑞穂(ボランティア)

標語の紹介

- 4月 明るい挨拶 広がる笑顔の輪
- 5月 一人一人心がければ 気持ちよい
- 6月 あいざつは 目を見て笑顔で 自分から

1日平均患者数

	25年度	26年度(4月~2月末)
入院	300.0	304.6
外来	519.5	513.9

手術・化学療法・PET-CT件数 ※ ()内は1日平均件数

	25年度	26年度(4月~2月末)
手術	2,384 (9.8)	2,144 (8.9)
外来化学療法	10,274 (42.1)	8,360 (37.8)
PET-CT	4,923 (20.2)	4,186 (18.9)

当院は予約制を行っており、予約患者さんを優先しております

診療科		月	火	水	木	金	
消化器	内科	食道・胃・大腸	梶原(化)	仁科(化)	仁科(化)	梶原(化)	
		肝・胆・膵	西出(内)		堀(内)	松本(化)	
	外科	食道・胃	○栗田	羽藤		野崎	
		大腸	小林	落合		小島	★落合 ☆小島
		肝・胆・膵		大田	棚田		
		内科新患	北島	野上		上月	原田
呼吸器	内科新患	上月	原田	野上	北島	野上(新患のみ)	
	外新患	山下	澤田	末久	山下	上野	
	禁煙外来		○末久		○上野		
緩和ケア・精神腫瘍科		三好(緩和)	谷水(緩和)	成本(緩和)	落合(緩和・精神)	成本(緩和)	
		大中(緩和/第4週)					
泌尿器科		○橋根		橋根		○細川	
		○中島		○二宮		○二宮	
		○井出		○細川		○中島 ☆橋根	
血液腫瘍内科		吉田			吉田		
感染症・腫瘍内科	○濱田				△濱田		
婦人科		竹原	大亀	竹原	大亀	白山	
		横山		白山		横山	
		小松		小松		大亀	
乳腺外科		青儀	高橋	高嶋	青儀	△清藤	
		高嶋	大住	高橋	清藤	大住	
				S原(化)		原(化)	
形成外科	○河村	○時吉	○河村	○服部	○服部/時吉(隔週)		
頭頸科 (耳鼻咽喉科)	門田	○担当医	門田	○担当医	橋本		
	橋本		松本		松本		
	花川		花川				
整形外科 (骨軟部腫瘍)	○杉原		○杉原	△杉原	○杉原		
	中田		中田		中田		
放射線	診断科	菅原	梶原	清水	菅原	細川	
		片岡/上津	片岡/上津	上津/西川	西川/上津	西川	
	治療科	西川	西川	片岡	片岡	★片岡/★上津 ☆上津/☆片岡	
	ストーマ外来		落合	橋根	小島		
	リンパ浮腫外来		○河村			△清藤	
	リンパ浮腫ケア外来		リンパ浮腫ケア(自費)			服部/時吉(隔週) リンパ浮腫ケア(自費)	
	麻酔/疼痛外来					☆首藤	
	セカンドオピニオン	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
	家族性腫瘍(がん)相談室	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
	がん患者外来	がん看護外来	がん看護外来	がん看護外来	がん看護外来	がん看護外来	
	がんドック	酒井	高橋	酒井	高橋	酒井	
	内視鏡生理検査		治療内視鏡	梶原	堀	松本	
			堀	西出	西出	堀	
			治療内視鏡			西出	

予…予約のみ ○…午前のみ △…午後のみ ★…奇数週 ☆…偶数週 (化)…化学療法担当 (内)…内視鏡治療担当
※診療担当は変更する場合がありますので、事前にご確認ください。



伊予郡砥部町 赤坂泉
撮影:高市 瑞穂

外来診療一覧表

- 新患受付時間 7:30~12:00
- 診療時間 8:30~17:15
- 休診日:土・日・祝日及び年末年始

担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください

四国がんセンター概要

〒791-0280
愛媛県松山市南梅本町甲160
TEL:089-999-1111
FAX:089-999-1100
<http://www.shikoku-cc.go.jp/>

環境

“いで湯と城と文学の街”ここ愛媛の松山はノスタルジックあふれる城下町。当院はこの城下町の南東に位置し、東に霊峰石鎚、北に道後温泉、西に伊予灘を望み、自然に恵まれた最高の療養環境に立地しています。

交通機関も伊予鉄巡回バスの運行など便を増やすことで来院も便利になりました。

今後も患者さんの視点に立った細かな配慮を心がけ、西日本を代表する「がん専門病院」として精進いたします。

診療内容

- 呼吸器内科
- 呼吸器外科
- 消化器内科
- 消化器外科
- 精神腫瘍科
- 緩和ケア内科
- ストーマ外来
- 禁煙外来
- 泌尿器科
- 血液腫瘍内科
- 感染症・腫瘍内科
- セカンドオピニオン
- 家族性腫瘍(がん)相談
- がん患者外来
- 乳腺外科
- 婦人科
- 頭頸科
- 整形外科
- 形成外科
- リハビリテーション科
- リンパ浮腫
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 病理診断科
- 歯科
- 麻酔科
- がんドック

病床数 405床

TRAFIC ACCESS 交通のご案内



車でのお越しの場合

- 松山空港から車で 約45分
- JR松山駅から車で 約30分
- 松山市駅から車で 約25分
- 松山自動車道
 - 松山インターから車で 約20分
 - 川内インターから車で 約20分

電車・バスでお越しの場合

